

日刊 勤労千葉

79.7.28

No. 184

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二二五八・九(公衆電話)2272・7207

告訴路線は「本部」反動分子の完敗宣言だ！

勤労千葉は、堂々と敵を打ち倒す勝利だ！

「本部」革マル反動集団は七月二三日東京地裁に対し、昨年一二月から本年二月分までの組合費を請求する訴訟を起してきた。関川委員長以下一〇名の勤労千葉執行部に対するこの訴訟は、この間の反動分子の勤労千葉破壊策動がどうにもならなくなったために、遂に、彼等が権力に泣きつかなければならなくなったということを示しており、運動の破産を排除の論理によってしか解決できないことを自己暴露した第一〇五回臨時中央委員会までの「勤労千葉の中心的活動家三〇名の除名」という「敗北宣言」に続く第二の「敗北宣言」とも言うべきものである。われわれはこの革マル反動分子の御からする訴訟提起が、この間の暴力やデマ宣伝をもってする勤労千葉破壊策動に対する勤労千葉一四〇〇名労働者の勝利の記念碑であることをはっきりと確認し、堂々と受けて立ち、これまでと同じように勝利する決意である。

万全の体制をもつて反撃を開始

われわれは「本部」革マル反動分子の組織破壊攻撃との闘いを勝利的に展開する中で、当然起り得る事態として、支離滅裂化した反動・暴力分子による権力への泣きつきがあることを考えており、充分な対策を立ててきている。すでに準備は整っており、われわれは所定の方針に基づき、確信に満ちみちた反撃を開始する。われわれの勝利は確実である。

嫌がらせ以外になすべもない反動革マル分子

次に反動革マル分子はどのような勤労千葉破壊策動をやってくるのか。
三〇名の中心的活動家を除名にし、権力の手を借りて勤労千葉に敵対しようとしてきたことは「本部」反動分子が、実質上「千葉地本再建」をあきらめたということであり、今後、勤労千葉に対する攻撃は、勤労千葉組合員をあらゆる脅迫や金

三里塚空港反対の闘いに、全力を挙げて取組んでこられた、「成田の平和を守る市民の会」の村田豊会長が、七月二三日夜、永い闘病生活の末永眠されました。つつしんで哀悼の意を表したいと思います。

成田市民の会会長・村田豊さんの死を悼む

千葉の闘いにも支援をおしませ、常にわれわれへの闘いを励ましてくれました。

若い時からのキリスト教信者でもある村田さんの葬儀は七月二五日三里塚の教会でしめやかに行われました。勤労千葉から

村田さんの遺志に答え、二期工事粉砕・ジェット闘争に勝利してゆこう！

銭上の誘惑も含めてロウラクし、仮にたった一人だとしても、当局に対し「『再建千葉地本』の組合員がいる」のだとゴリ押しして、勤労千葉の闘いを妨害し、千葉における動力車職場の労働条件などはおかまいなしに、只々破壊のための破壊攻撃をしかけてくるということである。
竹竿やボールをもってする破壊策動(「4・28」5・1以前)、大量動員による圧力(「4・28」5・1)、陰湿な「オルグ」(「4・28」5・1以降)と謀略的デマ宣伝、当局や公労委に泣きついで「認知」妨害等々、全ての勤労千葉破壊策動の破産によって、とうとう裁判所にまで泣きつかなければならなくなった反動革マル分子は、この「裁判闘争」に勝利する展望などは全くないのであり、あとはチョロマカされた一、二の「本部派組合員？」を使つての「嫌がらせ」以外に「なすべ」もないのだ。

勤労大改革へ前進しよう！

われわれはこの間の勤労千葉破壊攻撃に対し、一四〇〇名の団結をより強固にする中から勝利を切り拓いてきた。
組織的な闘いにおいて完全な破産に追い込まれ全国の良心的組合員が續々と決起する中で、反動革マル分子には、いまや一本釣的に個々の組合員に対し、金銭をチラつかせたり、脅迫するという労働組合にあるまじき手段を使つての、利用主義的なウソをもつてするロウラク策動しか残されていないことははっきりしている。
この間の闘いで培った一四〇〇名の団結力を基に、このような謀略的攻撃を断固粉砕し、勤労大改革をかちとってゆこう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！